

令和4年度 第1回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年6月17日（金） 午後2時00分から4時00分まで
- 2 開催場所 中央図書館臨時事務所4階
- 3 出席状況 委員：小杉大輔、酒井勇治、大場大晃、北脇浩美、三宅栄子、三津間洋子
欠席：石野純子、永井宏明

事務局：

文化振興担当部長 嶋野聡、中央図書館長 高瀬理子、
中央図書館館長補佐 山下譲、中央図書館専門監 久野正博、
図書館管理グループ長 内藤真澄、
図書館サービスグループ長 鈴木早苗、
調査支援グループ長 吉田佐織、
資料・情報グループ長 鶴飼康生、
天竜図書館長 村雲稔、春野図書館長 笹竹由美子、
佐久間図書館長 藤本勝治、水窪図書館長 宇井智洋、
龍山図書館長 鈴木忠、森田ひとみ主任、柏木麻友子、増原愛海

- 4 傍聴者 0人（一般：0人、記者：0人）
- 5 議事内容 (1) 図書館事業について
ア 令和3年度事業報告
イ 令和4年度事業計画
(2) 図書館評価について
(3) その他
- 6 会議録作成者 図書館管理グループ主任 森田ひとみ
- 7 記録の方法 発言者の要点記録

8 会議記録

- 1 開会
2 小杉会長あいさつ
3 嶋野文化振興担当部長あいさつ
4 議事

(1) 図書館事業について ア 令和3年度事業報告
鈴木図書館サービスグループ長が説明

◆資料1 令和3年度事業報告

質問意見

三津間委員

令和3年度の主要事業について。コロナ禍において従来のやり方に制約がかかった分、新たな方法を模索・実施するなどして幅を広げられたと感じる。

赤ちゃんのための絵本講座のアーカイブ配信は、今の子育て世代にとってYouTubeという身近なツールを使用していること、また小さい子連れで外出しにくいという状況への支援でもあり、大変ありがたいものだと思う。

また、学校との連携事業は実績が上がっていて良いと感じる。特に学校図書館補助員対象の連絡会や講演会は、限られた時間の中で本を通して子供たちと繋がりたいという使命感の強い補助員たちにとって、意欲を満たすものであり、そのような機会があることは非常に好ましい。

読書推進講演会「ノースウッズ 生命を与える大地～北の森にオオカミを求めて～」のアーカイブ配信を視聴したところ、非常に良かった。コロナ対策で開拓したものは、収束した後も活かして行ってほしい。仕事で時間が限られる人、会場に来られない人などの利用につながると思われる。

郷土史についても、大河ドラマで注目されている地域ということもあり関心が高まっている。子供向けの講座や郷土研究講座のサテライト配信があったことは、自分が住んでいる地域や、浜松を知るという意味では非常によい取り組みだと思う。

北・都田・積志・可新・はまゆうの合同企画展示「図書館員のおすすめする100冊」は、ネーミングと他館が連携しているという点が面白い。1館だけでは100冊としないことを考えると、いくつかの館で歩調を合わせて企画をするというのは面白い取り組みだと思う。

小杉委員

コロナ禍以降、できないことや実績が減ったということが多かったが、令和3年度については喜ばしい変化が多くよかったと思う。

資料1より感じたことが2点。1点目は4ページのグラフの見せ方について。例えば、レファレンス受付数の令和2年度、3年度の件数はほとんど無いように見えてしまう。また有効登録者数の令和3年度の数値も、減っているということは事実であるが、その減り方がグラフの見た目から大幅に減っているように見受けられる。数値としては大げさではないものが、グラフの見た目だけで重症のように見えてしまうので、場合によっては件数を示す横軸を調整し、よりよく見せる努力をしてもよい。

2点目は質問。一般向け講座・講演会のオンライン配信はぜひアフターコロナとなっても続けてほしい。

今回オンライン配信をするにあたり、高齢等でやり方がわからないなどサポートが必要なケースはあったか。

早苗G長

読書推進講演会の配信については、かなり遠方の方からの申込もあったが、やり方についての相談は受けなかった。

吉田G長

高齢の方の参加が多い郷土研究講座はハイブリット型で、受付については今はロゴフォームというオンラインでの申し込みが主となっているが、往復はがきでの受付も残している。

配信自体については、高齢者という理由より、環境面で音声途切れがちになる方がおり、その方からの問い合わせに対し電話でサポートしたという経緯がある。郷土研究講座③は、遠方の方は会場への来館が困難であり、また自宅に設備がない場合もあるため、三ヶ日図書館・細江図書館がサテライト会場を設けることで、楽しんでいただけた。

小杉委員

的確な支援が行われていたようで、安心した。

(1) 図書館事業について イ 令和4年度事業計画

鈴木図書館サービスグループ長が説明

◆資料2 令和4年度主要事業計画

- | | |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北 脇 委 員 | 夏休み調べ学習講座について。市内8図書館10回開催というのと、概ね1館当たり1回という開催頻度ということか。 |
| 早 苗 G 長 | 仰るとおりである。指定管理館で開催されるすべての講座を、中央図書館の指導主事が担っている。今年度は中央図書館がリニューアルオープンということもあり、これ以上の開催回数を増やすことが難しいと判断した。そのため、オンライン講座を設け参加できなかった子に対してその機会を設けていく。 |
| 北 脇 委 員 | やはり実際に図書館に来て、直接本を選んでみるという経験も大事だと思うので、環境が整った暁にはぜひ回数を増やしていただきたい。 |
| 早 苗 G 長 | 是非再開をしたいと考えている。来年度以降の課題としていく。 |
| 北 脇 委 員 | シニアサービス事業について。シニアのための楽しい音読教室について、令和3年度は中止だったのか。 |
| 早 苗 G 長 | 何度か計画を立てようとしたが、そのたびに運悪くコロナの波が来てしまい実施を断念した。好評をいただいた事業でもあるので今年度こそは再開をしたい。 |
| 北 脇 委 員 | できたらいろんな会場で開催してほしい。 |
| 早 苗 G 長 | 中央図書館以外でははまゆう図書館でも開催をしていた。はまゆう図書館もコロナのため実施に至っていなかったが、そろそろ再開するのではないかと思っている。 |
| 三 津 間 委 員 | 資料23頁の情報BOX研修会とはどういうものなのか。 |
| 早 苗 G 長 | 情報BOXとは、新しく導入された学校図書館システムの名称。その運用や操作方法について学ぶ研修会である。新任で操作に不慣れな補助員に向けて、毎年2月頃に開催をしている。年度が切り替わり、学校ごとに統計を取る際に悩まないよう説明を行っている。 |
| 小 杉 委 員 | 計画においても好評の事業や講座が多くとても良い。
夏休み調べ学習講座をはじめ、オンライン配信も広がっていて好ましい。
夏休み調べ学習講座のオンライン講座は、参加できなかった方・興味のある方のために、ということだが浜松市の子供に限らず開放されるのか。 |
| 早 苗 G 長 | 講座の情報がどのように広まっていくかにもよると思うが、広報はままつや各学校を通じて生徒に配付したチラシを、たまたま市外の方が目にして視聴したとしても差し支えはないと考えている。しかしながら、やはり浜松市内中心で活用をしていただきたい。そのあたりは今後詳細を詰めていく。 |
| 小 杉 委 員 | 一度ネットにあげたものは拡散され、アクセス数が急上昇することもある。それ自体は喜ばしい面ではあるが、どこの市からのアクセスかなど詳細な統計が取れれば、浜松市外の方にも貢献しているという報告ができる。 |

早 苗 G 長 申込受付の段階で条件をつけたり、そういった内容を入力するようにしていくことはできるかもしれないので、今後検討していく。

(2) 図書館評価について

内藤図書館管理グループ長が説明

- ◆資料3 図書館評価について
- ◆資料4 図書館評価の方法について
- ◆資料5 令和3年度浜松市立図書館評価指標（自己評価）
- ◆資料6 浜松市立図書館評価（令和3年度）

三 宅 委 員 1頁「いかす」の箇所について、自動車文庫新規配本所2カ所開設とあるが、全体で何カ所くらい行っているのか。

高 瀬 館 長 合計で約130箇所の配本所がある。図書館要覧に記載のある配本所以外にも、臨時の配本所がある。幼稚園や季節等で臨時に来てほしいという要望を受けて行ったりしている。自動車文庫は城北図書館の2台、天竜図書館、引佐図書館でそれぞれ1台の市内合計4台で運用している。

三 宅 委 員 3頁「はぐぐむ」の18歳以下の利用者カード有効登録率について。高校生になると利用が少なくなるということが言われているが、18歳以下のさらに年齢別の統計調査はしているのか。

内 藤 G 長 年齢別の統計を毎年取っている。0歳から10歳までは30～40%と非常に多くの有効登録者数となっている。15歳を過ぎたあたりから30%台、以降徐々に低下し18歳では20%を切っている。

三 津 間 委 員 確かに高校生くらいになると少なくなるという傾向が統計にも出ている。ここをどうにかしていきたいところではある。

北 脇 委 員 第3次浜松市子供読書活動推進計画46頁にも記載の、利用者カード登録率にあるように、高校生世代になると登録率が下がるということが以前から言われている。令和2年度の学校図書館の年間貸出冊数を見ると小学校低学年で30冊、そこから24冊、17冊と下がっていき、中学になると約5冊となっている。高校生では1冊程度。このことから中・高校生は学校図書館自体も利用していないということが伺える。中学・高校であまり図書や読書活動に力をいれていないのではないだろうか。図書標準の達成率も高校に行くほど下がっている。こうした状況の中で、図書館だけの努力で登録率を上げるのは難しいのではないかという気がする。

三津間委員	<p>現場の視点から言うと、中学校ではだいぶ改善された。以前は学校図書館といえば鍵のかかった場所だったが、図書館補助員が配置されることによって開けた場所となった。</p> <p>また、標準冊数の割合については様々な見方ができる。例えば、ある時期に標準冊数を満たそうとして、地域の方から本の寄贈をいただいたということがあった。これにより全体の冊数や割合は増えたが、その反面、動かない本や情報が古い本も多く集まってしまったということがあった。また、ある中学校では思い切って多量の本を除籍したことがあった。その分子供たちの手に取りやすい本を入れていくのだが、本の購入費には限りがあるため、結果として一時の冊数は大幅に減ったということがある。</p> <p>標準冊数の達成率35%について、感覚としてはもっと高い気がする。現在の中学校の図書館は、廊下に新着本が並べられていたり、POP付で本を紹介したり等かなり積極的に動く図書館となっている。今後も発展の余地はあるが、中央図書館で行う補助員の研修会や講演会がかなり助けになっているのも事実である。補助員が育ち、子供たちに働きかけを行うことができるようになってきている。</p> <p>また近年は、図書館は本を借りる場所のみならず、学校の授業に参加できない子がホッとできる場にもなっている。そこで補助員と繋がり、学校での居場所となっていることもある。様々な現場を実際に見てみると、小学校中学校ともに眠っている学校図書館はなく、かなり整備されていると言える。</p>
北協委員	<p>図書館補助員については、配置は100%で各学校で活躍をしているが司書教諭の配置はどのようになっているのか。</p>
三津間委員	<p>法律により12学級以上の学校には100%配置されている。</p> <p>司書教諭には本を使って子供たちにつなぐという役割があり、そのため講習や研修を受け資格を有する者である。しかしながら通常の授業も行うなど、全体の業務量の中で司書教諭としての役割のみに時間を割くことができない状況がある。補助員と話す時間すらないこともある。そういった中で、他校の補助員同士が横のつながりを作り、悩みや不安を共有できる機会のある研修会などがあることはとてもありがたい。</p> <p>現状としては、学校には補助員の悩み等に対応する役割のある司書教諭がいるものの、それだけに専念できる人的配置はなされていない。</p>
北協委員	<p>実際は市立図書館が学校図書館に対して支援パック等様々な支援を行っている。もし学校に司書のように専門家がいれば、現在図書館が担っているような支援についても役割を果たしていけるのだろうか。小・中学校合わせて150校すべての支援を図書館で行うことは大変なのではないだろうか。</p>
三津間委員	<p>補助員が全校配置されただけでも目覚ましい進歩ではあるし、確かに学校で問題解決できることが望ましいことではあるが、現状図書館の手助けはいらぬと言える状況ではない。</p>
高瀬館長	<p>学校司書という言い方もするが、全国的に公立の小中学校での配備率は68%、中学校では64%。浜松市は平成19年に100%配置となり、全国的に見ても画期的なことである。それにより、学校図書館が学校での居場所として成り立つようになったことは、先進的なよい取り組みであると思われる。</p> <p>子供たちが本を使った学びをし、そこへ市立図書館としてさらに連携・支援をすることで、それをより深めていくことができるよい形ができていないのではないかと思う。</p>
北協委員	<p>補助員の方は何か資格が必要なのか。</p>
高瀬館長	<p>特に司書資格は必須ではない。</p>

- 三津間委員 第3次浜松市子供読書活動推進計画はとてもよくできている。第1次、第2次から構成が変わっており、図書館だけでなく教育委員会等の参加もある。
21頁の先ほど話題になった登録率について見ると、中学校の登録率は30%台、高校生は20%台である。第2次の時点での目標値は、中学生が70%、高校生は60%であり、目標値とかけ離れているのではないかという話が前回上がったところである。
カードの登録数に関係すると思うが、中高生は本を借りて読むためにカードを作って利用するというよりも、何かの課題に対し情報を集め精査するという情報活用講座のような需要の方が多いのではないだろうか。また、中高生の生活もかなり忙しいので、場所・時間にとらわれてしまう利用者カード作成はハードルが高いと思われる。
利用者カード登録率だけで見ると中高生が図書館を利用しないと見えてしまうが、決してそうではなく、新設される座席予約システムは需要があり、活用されると思われる。じっくり学習したいという要求が、中高生にはある。カード登録率にこだわらず、その年代が求める部分で図書館を利用してもらえればよいのではないか。カードの有効期限が5年で一旦切れてしまうため、登録数は減ると思われるが、図書館は利用しているという学生が一定数いると思う。
- 三宅委員 入館はカードがなくても入れるが、その入館者の把握はしているか。
- 高瀬館長 入館者数は把握しているが、年齢別などの詳細はカウントできない。要覧にあるような貸出利用者数では捉えられない部分、例えば本は借りず展示だけを見に来た、雑誌新聞を読みに来た等、なんらかの目的で来館した人の把握に繋がればと思っている。
- 酒井委員 5頁「つながる」評価指標4「自治体、企業、各種団体等と連携して実施した事業の件数」が大幅に伸びている要因は何か。どことどういう形でつながったのか。目標値74件はこれまでの実績から算出したものであると思われるが、それからみると実績の189件はかなりの伸びである。
- 早苗G長 主な連携先は市役所庁内の他の課である。例えば、精神福祉保健センターの心のケアに関するパネル展がある。巡回展示ということで担当課よりお声掛けがあり、それに対して地区館も積極的に参加してくれる。1館につき1件とカウントするので大幅に件数が増えたと考える。その他の課からも、複数の館で開催できる催しのお誘いを多くいただいている。
- 三宅委員 他課が企画を持ち込んでくれるとの話だが、中央図書館から何か働きかけを行ったのか。
- 早苗G長 図書館だよりで発信をしたり、議会図書室などで図書をみていただく機会を増やしている。庁内以外にも大学からお話をいただいて、春野図書館で地元の高校生と連携した事例もある。外部の団体、民間企業などからも複数の図書館にお話をいただいており、今後もそういった企画を協力的に行っていきたいと思っている。
- 高瀬館長 図書館ビジョンに示した、「図書館で人と情報と地域と繋がる」という部分が少しずつ形になっていると感じる。
- 三津間委員 本の宅配について。高齢者から希望があったと聞いている。宅配は利用者負担で費用がかかる。高齢者自身の身近な所にあるであろう北遠の図書館として、来館を待つだけでなく、何かこういうサービス等があったらよいと思うものはあるか。

笹竹春野図書館長	<p>宅配の件に関して、春野地区で利用があったと聞いているが高齢者ではなく若い方とのこと。自宅に高齢者がいるため、コロナ禍で街中に行くのははばかれるものの、中央所蔵の本が必要であるという人が利用している。急ぎでないならば、日数はかかるが連絡車を待つという方法もあるが、なるべく早く借りたいということで、料金の了承を得た上で利用されたようだ。</p> <p>自動車文庫や図書館利用者が高齢の人が多いため、どんな使い方がよいか来館者の意見を聞いてみるのもよいかと思う。</p>
三津間委員	<p>春野図書館をバスや電車の時間合せでたまたま利用した知り合いがあり、とても豊かな時間を過ごしたとのこと。住民でなくても、偶然立ち寄った人が気持ちよく滞在できる場所としての役割を持たせてもよいのかもしれない。</p>
北脇委員	<p>自分の属するボランティアの会で図書館への意見・要望を聞いてみたことがある。冊数は多いが古い本が多いとのこと。北図書館が最寄であるが、わざわざ新しい都田図書館へ行くと言っていた。古くても価値のある本はあると思うが、あまり古い本ばかりでは利用をためらってしまうようだ。</p>
高瀬館長	<p>本がきれいで清潔な印象の図書館に行きたいというのは当然で理解できる。</p> <p>浜松市の場合、政令市の中で図書館数が大変多く、市民一人当たりの蔵書数は多いが、1館あたりの図書数や使えるお金は低くなる。なるべく冊数を確保しようとする目が見えなくなった本もある程度置かざるを得ない。そういう本を求める方もおり、古いから使えないというわけでもない。本の価値が経年と共に下がるものは、こまめに入れ替えながら蔵書数を維持しているが、棚の収容数に応じて、ある程度古いものも置いていくことになる。都田のようにオープンと共にすべて新刊を揃えた図書館はまだ新しい印象。除籍すべき本は除籍し、魅力がある書棚を作るのは図書館員の腕の見せ所であると思う。</p>
三宅委員	<p>図書館の改修計画について。今後は他の図書館でも実施を考えているのか。</p>
内藤 G 長	<p>市の施設は築40年を目安に改修を行っており、複数の図書館がその対象である。令和7年度～令和8年度ころに大規模改修をしていく予定である。</p>
高瀬館長	<p>浜松市の公共建築物長寿命化計画に基づき、大規模改修を行うかどうか、施設の状況をみながら行っていくことになる。</p>
三宅委員	<p>今すぐにといいわけではなく、そういう計画があるということでもよろしいか。</p>
高瀬館長	<p>計画的に進めていく。</p>
三津間委員	<p>7頁「つくる」職員の研修について。配信やリモートなどを利用し、研修回数が多いのはとても良いことである。改修を終えてどんなに新しくなった図書館でも、自分の求める本を職員が見つけてくれた、といったソフト面でのサポートがあるのとないのでは満足度は違ってくる。スキル向上という課題も、数値が上がっているようで良かった。</p>
北脇委員	<p>同じく「つくる」から。図書館プロモーションの充実に関してHPのアクセス件数多いと見受けられるが、アクセスの目的は何か。</p>

高瀬館長 何を目的にHPを見ているかは把握しかねるが、蔵書検索は相当数あるのではないかと思われる。また、トップページに様々な案内も掲載しているのか、最新の図書館の動向をチェックしたりしているのではないか。

北脇委員 利用者アンケートはよくできている。例年アンケートは秋にとると思うが、HPにもウェブアンケートを掲載しているか。HP上でアンケートをもう少し目立つようにしてもよいのではないか。これだけアクセス数があるので、協力的な人はいると思われる。

高瀬館長 蔵書検索が目的の人はいきなり検索画面に入ってしまうため、他の情報に目が行きにくいということはある。アンケートを目立たせつつ、他の情報が見づらくなならないよう何か工夫を考えていきたい。

小杉委員 「いかす」「はぐくむ」「つながる」「つくる」に関して意見等が出たと思う。質疑はここまでとする。
委員におかれましては、外部評価用紙に記入のうえ7月1日（金）までに事務局へ提出願いたい。

(3) その他
なし

5 閉会

9 会議録署名人 小杉 大輔 会長

北脇 浩美 委員

令和4年6月17日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いがないことを確認した。

令和 年 月 日

署名 _____

署名 _____